

派遣留学報告書 (1 月分)

金沢工業大学 経営情報工学科

村中 可依

冬期休暇が明け、1 月 5 日からクラスがスタートしました。派遣留学生としての生活も残り 1 ヶ月となり、改めて時の経つ早さに驚かされます。ロチェスターは 1 月に入ってからさらに寒さが厳しくなり、マイナス 15 度の日々が何度か続きました。今回の報告書では中間テスト、学内の様子について報告したいと思います。

中間テスト

先日、アカデミックのクラスで中間テストが行われました。テスト勉強は 2 冊のテキストブックをひたすら読んで理解するという勉強方法で、この内の 1 冊のテキストはチャプター 1~7 という幅広いテスト範囲で、この広範囲にわたるテスト勉強に初めは戸惑いを感じましたが友人の助けを借りてなんとか勉強し終えることができました。テストはマルチプルチョイスの問題が 60 問、1 問につき 75 文字程度書くエッセイが 7 問ありました。制限時間は 100 分でほとんどの学生が制限時間内に終わっていましたが、私は最後の最後まで残ってテストを受けていました。結果はマルチプルチョイスの方は思っていたよりも点数が良かったのですが、エッセイの方が散々な結果となってしまいました。しかし、アメリカの大学でテストを受けるという体験ができたこと、どのような感じのテストかを知ることができたのは貴重な経験であったと思います。

前回の報告書でアメリカの授業形態について書きましたが、先日も授業中に先生からトピックが出され 4~5 人のグループに分かれて討議が行われました。討議後は毎回グループで話し合った事を皆の前で発表する時間が設けられ、前回の授業で私はグループの代表として皆の前で意見を発表しました。また、別の日には先生から出されたトピックをグループワークではなく一人一人考えて発表するようと言われ、ボーナスポイントがもらえるという事だったので自ら前に出て皆の前で発表しました。私の英語がクラスメートの皆に理解してもらえたかどうかはどうかであれ、自分の考えをまとめて皆の前で英語で発表することが出来たのは貴重な体験であり、私自身にとって大きな自信となりました。

学内の様子

ロチェスター工科大学は金沢工業大学の 8~9 倍の広さで、学内にはビルディングからビルディングまでをつなぐバスが通っています。また、学生が住んでいる寮やアパートメントへもバスが通り、誰でも無料でバスを利用することができます。他には、RIT に限らずアメリカの大学には co-op という学生が在学中に自分の専攻、将来のキャリアに関連した職業体験を行う教育プログラムがあります。RIT では学科によって違いはあるが、ある学科では 3 ヶ月間の co-op を卒業するまでに 5 回、平均は大体 2 回だと聞きました。どの職業にも、講義ではなく、実際の職場でしか学べない事があると思います。在学中に実社会について知り経験できるこのようなプログラムは今後のキャリアにおいて大変ためになるものだと思います。こうしたことから欧米では企業側から採用時の重要な要件として、学習内容の専門性に加えて労働経験

の必要性が求められるようになり、実社会での仕事、活動の経験が、卒業後の職探しのためになくてはならないステップとなっているようです。

残り後1ヶ月、悔いの残らぬよう一生懸命頑張りたいと思います。